

d i s h o n e s t A b e

2017年4月4日

静岡県労働研究所 理事長（弁護士）

萩原 繁之

h o n e s t A b e。アネスト（ないしはオネスト）エイブ。正直エイブ。冒頭から横文字で恐縮だが、米国史上最も偉大な大統領とも言われる、エイブラハム・リンカーンの愛称である。

少年時代に偉人の伝記などで、リンカーンが正直者として知られたエピソードを読んだ記憶があるのは、私だけではないだろう。他人から借りた大切な書物を、雨に濡らしてしまったことを正直に伝えた、とか、6セント半のおつりを誤って渡し忘れてしまったことから、10キロメートルの道のりを歩いて返しに行ったとか、様々な挿話が伝えられている。リンカーンは弁護士出身だが、正直者や貧乏者の味方だったことが、正直者のエイブという評判につながった、とも言われる。ほかに、弁護士時代のリンカーンの反対尋問の挿話とか、大統領になってから大統領執務室の前で自分の靴を磨いていて訪問者にぞんざいな言葉を掛けられたとか、エピソードに事欠かない人物だ。いずれにしても、南北戦争、ゲティスバーグの演説、暗殺による悲劇的な最期などの歴史的な事実との関わりもありつつ、生い立ちも、人柄も、人の心を打つところのある歴史上の人物だったのだと思われる。

翻って、同国の今度の大統領は、どうだろう。1989年公開の「バック・トゥー・ザ・フューチャー・パート2」に登場するビフ・タネンのモデルとも言われる現大統領に、あまり長期に渡ってお付き合いしたくないと感じるのは、これも私だけではないだろう。

近時は、嘘とか、デマ、でっち上げ、など言う、品のない言葉に代わって、ポスト真実、とか、アナザー・ファクト、などという奥ゆかしい言葉が多用されるようになってきている感があるが、事実をゆがめたり一面化して、人種、民族、宗教にかかわる差別と偏見を持ち込み拡大するような者が、世界中で、政治の表舞台で幅を利

かせるようになってきたようだ。

外国のことだけではないことは自明だ。全世界に向かって「放射能は完全にブロックされています」と宣言し、準備は万端であるかのように述べてオリンピック・パラリンピックを招致した当の本人が、「『テロ等組織犯罪準備罪』がないとオリンピック・パラリンピックが開催できない」かのようなことを言う。だったら、「テロ等組織犯罪準備罪」がないのに招致した際に準備万端のように言ったのは嘘だったのか。「テロ等組織犯罪準備罪」は共謀罪とは違うから共謀罪と呼ぶな、というのも、インチキな話だ。本来刑罰法規で必須と考えられる、人、社会などの守られるべき利益（「法益」という）を侵したり、少なくともその危険を生じさせる行為。それがあって初めて処罰するという刑罰法規の基本的に反するという本質は何ら変わってはいない。

「自分や妻が関わっていたら、総理大臣も国会議員も辞める」などと、顔を赤らめて大見得を切った森友学園問題、自分をおとしめようというのか、と気色ばんだ加計学園問題。今、国会で多数を占めている。ある程度、数は力だ。力があれば何でもその力で押し通せると思っているのだろうか。この人のことを、「息を吐くように嘘をつく」と評する人もいるようだ。不誠実すぎる。不正直すぎる。

d i s h o n e s t A b e。もしかしたら我が国の史上最低の総理大臣といわれることになるかも知れない、と私の感じるこの人を、こう呼ぶのは、どうやら私だけではないようだ。

「偉大」な祖父を持つ3代目で、民主主義とか独裁とかに関する性向もよく似ていると私には思われる、北東アジアの2人の人物のことを、私は「3代目・J・ピョンヤン・ブラザーズ」と呼んでいるのだが、その一方がd i s h o n e s t A b eであることは、言うまでもない。